「伴」で「友」を知ることから始めよう
～福祉フェスタ開催～

伴社協は昨年十一月、**とも福祉フェスタ２０１９**を火山館で開きました。福祉行事として初めて沼田地区の五つの障がい者事業所が集い、活動紹介や作品展示、自主製品を販売しました。障がい者の社会参加を進める**安佐南区音楽交流会**も開催。障がいがある人と地域の人が触れ合い、相互理解を深め合いました。

（障がい者福祉部会　石富三弘部長）

平成三十年七月に開いた「福祉のまちづくりと社協」のワークショップ。参加者から障がい者について「よく分からない」「難しい」といった意見が出ました。

島根、鳥取両県では障がい者支援の「あいサポート運動」が広がっています。

これは、さまざまな障害の特性や障がいのある方が困っている点、気配りの仕方を学びます。ちょっとした配慮を日常生活で実践することを通して、だれもが暮らしやすい地域社会を一緒につくります。

フェスタ会場に集うスタッフ（11月24日・交流スペース）

相互理解を図る出店コーナー

連携した音楽交流会（沼田公民館）

この取り組みを知った時に思い付いたのが福祉フェスタです。今年も開催を予定しています。フェスタを通して地域の皆様が、福祉への理解を深めていただければ幸いです。

短信　伴あんしんネット

お年寄りを近隣の人が見守る「伴あんしんネット」伴中央駅ブロック会議は二月、四町内の活動推進メンバーが一年間の活動報告をしました。登録者二十六人を日常支援し、独居者が増える潜在的ニーズも確認、広報ビラ配布などの啓発活動を決めました。伴学区の四ブロック全体の登録者は一月現在三十八人です。

戸山・伴・大塚地域包括支援センター内　伴あんしんネットの会　電話（八四九）五八六〇

地域情報　掲示板　ひやま

広陵地区の下伴集会所の**お母さん広場**は、乳幼児を育てる母親が公園代わりに利用。コルクのブロックや手作りのおもちゃもあり、親同士、子同士が思い思いに過ごす。十二月はサンタも登場しました。

第三火曜日の午前九時半ごろから昼まで。

令和元年度の活動報告

総務部会

広島市から指定管理を受託している老人いこいの家は、地域のお年寄りが快適に交流する場です。十四のサークル団体も活動しています。二月十六日、**いこいの家サークル発表会**を開き、歌や踊り、介護予防運動、展示など十七のプログラムを披露しました。懇親会では「ボランティアすみれ」が手製カレーをふるまい、温かいもてなしが皆さんに好評でした。

（部長　大津　信之）

いつまでも現役

高齢者福祉部会

十一月二十七日、伴小学校で一年生と**むかし遊びの会**を開きました。伴学区の老人クラブ、女性会、民児協の各団体と分担し、お手玉、あやとり、けん玉、島跳び、竹とんぼ、こま回しの六種目を実施しました。二十七人の協力者が、昔磨いた技を児童に伝えて楽しく交流しました。

お年寄りが住み慣れた地域で、元気に活動する環境づくりに努めたいと思います。

（部長　伊藤　修太）

風の子　元気な子

児童福祉部会

みんなの体操「**げんきかい**」が定着しました。伴学区内の八会場で開いている大半が三～十一月、土日祝日を除く毎朝、ラジオ体操をしています。参加者全員に昨年実施したアンケート結果では、「腰痛が軽くなった」三十八人がトップ。「いろいろ話ができた」二十六人、「起床時間が決まった」二十人と続き、「ゴミ拾いで公園がいつもきれい」の意見もありました。顔が見える地域づくりの願いもこもっています。

（部長　西田　雅行）

気持ちもきれい

福祉委員部会

民生委員児童委員、各町内会長合同の福祉委員研修会を年二回開きます。二月計画した研修会は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて中止。第一部が太田川学園の内田健二理事長の「地域とともに五十年の歩み」と題したビデオとお話、第二部がフロンティー博、三笑亭こよん夫妻の手品と落語でした。次回再度、企画できたらと考えています。われわれ福祉委員は各地域で皆様の相談や見守り活動・サロン等を通して楽しい話題も提供できるように頑張りたいと思います。

（部長　有馬　義憲）

こむねっとひろしま案内

パソコンやスマホから閲覧できます。「こむねっとひろしま」と入力してトップページから安佐南区、伴学区へ進み、町内会など各団体を選びます。伴社協は広報紙の社協だより、部会等の多岐な活動を載せています。